



かがわ看護だより



平成28年10月20日

平成28年10月20日現在 会員数
7,110名

- 保健師 220名
- 助産師 263名
- 看護師 6,389名
- 准看護師 238名

(公社)香川県看護協会 〒769-0102 高松市国分寺町国分152-4
 TEL : 087-864-9070 FAX : 087-864-9071
<http://kagawa-kango.com>
 発行責任者／中村 明美



まんのう公園 広報出版委員撮影



まんのう公園付近 広報出版委員撮影

《目次》

平成28年度 業務執行状況	2 P
平成28年度 職能委員会活動報告	3 P
災害支援ナースフォローアップ研修に参加して.....	4 P
虐待予防 見逃しゼロに向けての研修に参加して.....	4 P
ワーク・ライフ・バランス推進事業.....	5 P
香川県ナースセンターからのお知らせ.....	5 P
平成28年度ふれあい看護体験	6 P
連載 がんばれナース 第8回	7 P
理事会報告・「ナースシップ」運用開始・お知らせ	8 P



平成28年度 業務執行状況

会長 中村 明美

今年度も半期が過ぎました。事業進捗状況についてご報告いたします。

◆地域における看護職の連携活動

地域包括ケアシステムの理解を深め、各支部で支部理事（支部長）が中心になり、さまざまな展開が始まっています。これは、モデルのない取り組みですが、「できない」ではなく、「できる方法を考える」ことで新たな発見や前進につながると期待されています。

昨年は、地域包括ケアシステム構築の第一歩として、日本看護協会がモデル事業を企画し第5支部、埴岡支部理事を中心に「わが町の看護チーム」を展開しました。今年も引き続いてモデル事業に応募し、第4支部、池内支部理事が中心となり取り組んでいます。また、もう一つのモデル事業として、宇多津町を中心に3職能合同で「子どもと子育て世代包括ケア推進モデル事業」が進んでいます。

◆訪問看護ステーションと急性期病院看護職が相互研修を行う事業

応募者が多く嬉しい悲鳴が上がっています。この事業は、地域包括ケア推進の一助となると思っています。関連して、日本看護協会の「訪問看護における人材活用試行事業」に手あげして、香川労災病院からまるがめ訪問看護ステーションへ長期に出向する事業が始まっています。がん専門看護師の岩田尚子さんが10月17日から出向しています。

◆労働環境改善事業

第1回のワークショップを9月7日に開催しました。例年と異なることは、さぬき市民病院、県立丸亀病院、かがわ総合リハビリテーションセンターとともに「医療勤務環境改善支援センターと連携したWLB推進モデル事業」を実施しているしおかぜ病院も参加し、日本看護協会労働政策部の小村課長はじめ香川県担当課・社会保険労務士会の皆さまも参加した開催でした。それぞれの病院はPDCAサイクルに乗って改善策を実行している段階です。

以上、今年度は、日本看護協会のモデル事業として4つの事業が走っています。

◆院内助産・助産師出向システム推進事業

香川県の定着した事業となることを目指しています。現在、高松赤十字病院から回生病院へ宮武律子さんが出向中です。香川大学医学部附属病院からの出向については、打ち合わせ中です。院内助産は県立中央病院と高松赤十字病院が先駆的に準備をしています。少子の時代、出産環境や子育て環境を整え、子育て県かがわ県を応援します。

◆教育

看護研修計画は、看護界のニーズをタイムリーに取り入れつつ、予定研修が進んでいます。平成29年8月開催の日本看護学会—看護教育—学術集会は、平木民子準備委員長を中心によくわくするプログラムを企画しています。皆さまには、研究論文の投稿をお願いいたします。

◆新会員情報管理体制「ナースシップ」

移行手続きは、皆さまの絶大なるご協力でスムーズに進んでいますが、どんなことでもご遠慮なくお問い合わせください。そして、お一人でも多くの方のご入会をお待ちしております。皆さまとともに看護専門職の職能団体として力強く進みたいのです。

保健師職能委員会

保健師職能委員 篠岡 有雅

子どもや子育て世代を対象にした“より質の高い”地域包括ケアシステムを構築するには、妊娠期から出産、育児にかかわる看護職の連携が不可欠とされています。そのような中、日本看護協会では全国6か所で「子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業」を実施することになりました。香川県看護協会では、保健師職能を窓口として助産師・看護師の三職能連携のもと、宇多津町をモデル地区として、妊娠期から育児期を切れ目なく支える体制づくりに取り組むこととしました。

まずは、三職能の委員と宇多津町の保健師をメンバーに検討を重ね、町における現状を把握し課題を共有するなかで、お互いの役割を理解することをねらいとしたワークショップを10月26日（水）に開催します。また、その結果を受け、12月には多職種を交えての事例検討会に繋いでいきたいと考えています。この中で、更に各専門職の役割を理解し、地域・個々のニーズに沿った支援ができるようネットワークの構築に繋げることを目標として取り組む予定です。

今後、さらに三職能の連携を強化しながら事業を進めますので、関係者の皆さま、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



三職能の代表者と宇多津町保健師による検討会の様子

助産師職能委員会

助産師職能委員長 野口 純子

香川県委託事業である新人助産師研修は、6年目となりました。今年度の研修は、県内8施設から15名の新人助産師が参加しています。第2回目は、9月10日に香川大学医学部附属病院に於いて「新生児蘇生法」の講義と演習を行いました。講師は、新生児集中ケア専門看護師西條順子先生とNCPRインストラクター（助産師）の宮本直美先生でした。参加した新人助産師からは、「理解できたと思っただけでも、実践となると焦ってしまった」「実践演習を重ねる大切さを実感した。現場で活かせるように、自施設でも物品点検を行い実践できるよう準備したい」という意見があり、事例に基づいた演習を行いました。新生児蘇生法（NCPR）は、お産に立ち会う助産師の殆どが講習を受けていますが、講習を受けていても実践できなければ意味がありません。新人助産師も気持ちを新たに真剣に取り組む機会となりました。



看護師職能委員会Ⅰ 病院領域

看護師職能Ⅰ委員長 白井真奈美

看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）では、地域包括ケア・在宅療養支援を進めていく中で病院や施設間、看護職・介護職の連携が必要となります。そのためには、情報交換や情報を共有し相互理解を深めることが重要です。在宅療養支援を考えるグループでは、病院で働く看護師が在宅療養支援において果たす役割を考える機会になるように、病院・施設からの事例をもとに意見交換や問題点を考え、お互いに顔の見える連携作りを目的に交流会の開催を計画しています。

診療報酬改定による「認知症ケア加算」の新設に伴い、認知症ケアに関する研修会にも多くの方が参加され、各施設でのチーム活動や看護にそれぞれの立場で取り組んでいることでしょうか。そこで、病院における認知症ケアを検討するグループでは、認知症状を有する患者のケアへの取り組みについて情報共有や情報交換する機会を持ちたいと考えています。その中で課題の抽出を行うと共に今後の看護に役立てていきたいと考えています。多くの皆さまの積極的な参加とご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

看護師職能委員会Ⅱ 介護・福祉施設・在宅領域

看護師職能Ⅱ委員長 井上 香里

今年度は、平成26年2月に作成した介護施設における看護職員のための「看取りガイドライン」を、介護職員等も活用できるものに改定することを目標に活動しています。改定にあたっては、昨年実施した看取り研修での参加者のアンケート結果や施設への出前講座時のご意見等を踏まえながら、先進事例も参考に検討中です。今年度も、ご要望があった施設に委員が出前講座に向かっています。一つひとつの経験をガイドラインに反映できればと考えていますので、ご希望の施設があれば私たちにお声かけください。

私たち委員会が企画する看取り研修の日程が決まりました。1回目は平成29年1月17日（火）「高齢者施設におけるターミナルケアの考え方とその実際」をテーマに、NPO法人メイアイヘルプユー理事（保健師）鳥海房枝先生による講義、2回目は平成29年1月24日（火）看護師職能委員会Ⅱ委員による実践報告とグループワークを行う予定です。11月頃にご案内させていただきますので多数のご参加お待ちしております。

また、10月から3日間コースで開催される看護職員の認知症対応能力向上研修事業「看護師のための認知症ケア研修」には、看護師職能Ⅱの委員もファシリテータとして参加することになりました。参加者の皆さまと一緒に学びを深めたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

災害支援ナースフォローアップ研修 「災害時に役立つ技術」に参加して



平成28年4月14日、そして17日、熊本県を中心として大きな地震が発生しました。最大震度7という想像を超える強い揺れが、わずか3日間の間に2度も起こったことは、この「平成28年熊本地震」の大きな特徴といえるでしょう。被災地域では、この体験の恐怖から自宅での生活に不安を感じた人々や自宅を失った人々などが、長期に渡る避難所での生活を余儀なくされました。

当香川県看護協会では、9月11日(日)、日本赤十字社香川支部事業推進課長 藤原淳子先生をお迎えし、「災害時に役立つ技術」と題し、一般会員にも公開し、研修会を開催しました。災害支援ナース51人、一般会員62人の合計113人が受講しました。

藤原先生は、リラクゼーション技術習得に先立ち、「内閣府の一日前プロジェクトを知っていますか」と質問され、引き続き「私たちは、災害時には支援者になれますが、被災者という立場にも立たされます。そういった時に、基本的な備えができていないと十分な支援に繋がりません」と話され災害体験者からの話を紹介されました。実際に自分が被災した時をイメージできず、どのように備えればわからないのが現状です。自然災害に遭遇した方が体験したことや感じたことを語り継ぎ、支援者の前に1人の人間として、自助の備え」がまずは大切だということを理解していただきたいと話されました。

また、被災者や、不眠不休で支援にあたる医療者や行政の方たちに、リラクゼーションを実際に行っているところも紹介されました。

参加者は、二人一組となって演習を行いました。演習ではお互いが向き合い、ハンドクリームを用いながら、手と腕のタッチングや、首と肩のタッチングを行いました。相手が少しでもリラックスでき、緊張がほぐれるよう力加減を考えながらタッチングを行っていきました。

研修後のアンケートでは、「研修を受講してリラックスすることができた」「患者にもぜひ行ってみたい」といった感想が沢山聞かれました。

過酷な状況で避難されている被災者や、病气やけがで苦しんでいる患者に寄り添い、少しでもリラックスできるよう、実践で活かしていきたいと思えます。

災害看護対策委員



虐待予防 「見逃しゼロに向けて」の研修に参加して



最近、児童虐待のニュースを見ない日がないほど全国的に増加しています。私たちは医療従事者としてどう対応すべきかを目的に四国子どもとおとなの医療センター 育児支援室長(小児科医師)木下あゆみ先生を講師にお招きし、9月3日(土)に研修が開催されました。

講義の中で、早期発見・介入のためには、家族の状況を理解することが重要であること。若年、精神疾患、DV、経済的困窮等、虐待する親にもそれなりの理由があること。また、子供に疾患や発達の遅れ等があり、いわゆる『育てにくい子』の場合もあることを知っておく必要があると説明されました。また、判断に迷った時は『チャイルドファースト』常に子供の立場に立って考えましょう」とも話されました。

講義は実際に先生が関わった事例をもとにした内容であったため小児科外来で勤務している私にとって観察の重要性を再認識することができました。又、話の中で『様子を見る』は虐待に加担しているのと同じであるという先生の言葉が一番印象に残りました。私達看護師は子どもから発信される危険信号に早期に気付く眼を持たなければならないと痛感した研修でした。

さぬき市民病院 中脇 悦子

ワーク・ライフ・バランス推進事業

医療勤務環境改善支援センターと連携したWLB推進モデル事業への取り組み



日本看護協会から、都道府県看護協会と医療勤務環境改善支援センター（以下「支援センター」という。）との連携により医療施設を支援し、その連携のあり方を明らかにするとともに、モデル事業の結果から、県看護協会と支援センターが連携していく上での課題やハードルを明らかにすることを目的にモデル事業に取り組む旨の周知がありました。香川県看護協会においては、従来の看護職のWLB推進事業を見直すことにしていたので、支援センターとも相談し、精神科単科のしおかぜ病院のご理解を得て、モデル事業に応募しました。

6月1日、モデル事業の決定通知があり、その後、日本看護協会の担当者、支援センターの関係者と打ち合わせを行い、事業をスタートさせました。

全職員を対象にインデックス調査を行い、データを分析し、アクションプラン作成へと進めることになりました。アクションプラン作成に当たっては、看護職のWLB推進ワークショップと同時開催も可能となっていたため、9月7日（水）香川県立丸亀病院、かがわ総合リハビリテーション病院、さぬき市民病院とともに4病院参加で同時開催しました。

1年目施設を対象にしたワークショップは、日本看護協会看護労働課の小村由香課長と香川県看護協会中村明美会長の導入講義から始まりました。小村課長は、看護職にとってのワーク・ライフ・バランスとは「人生の各段階において、多様な働き方を選択でき、仕事と生活を調和させ専門職としてのキャリア継続・看護の質の向上を図ること。そのためには、発想の転換、柔軟な考え方が必要になってくる。」と述べられました。

参加者は、それぞれの病院のワーク・ライフ・バランスを意識しながら、講師や香川県社会保険労務士会常任理事 近万博史様、香川県医務国保課課長補佐 穴澤孝雄様からご助言を得て、支援者とともに熱い論議を行い、最後にその成果を発表しました。参加いただいている病院は、これから4か月それぞれのアクションプランに沿って勤務環境改善に取り組むことになっており、来年2月18日にワークショップフォローアップで成果を報告することになっています。

今後、支援センターとの連携の中で、全職員を対象にしたWLB推進への取り組みが、関係者の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、ゴール達成に向け支援していきたいと考えています。

常任理事 田中 邦代



香川県ナースセンターからのお知らせ

平成28年度 看護職員確保状況調査報告

香川県内の89病院に調査依頼し、79施設から回答（回収率88.8%）がありました。ご協力ありがとうございました。各病院には、調査結果としてご報告させていただきましたので、今後の勤務環境改善・確保対策等にご活用いただければ幸いです。

<以下、調査結果を抜粋>

①平成27年度看護職員の入退職状況

年度内 入・退職者数	入職者数		退職者数	
	平成26年	平成27年	平成26年	平成27年
新卒者	404	389	30	29
既卒者 (1年以内の退職)	386	389	643 (79)	616 (83)
合計	790	778	673	645

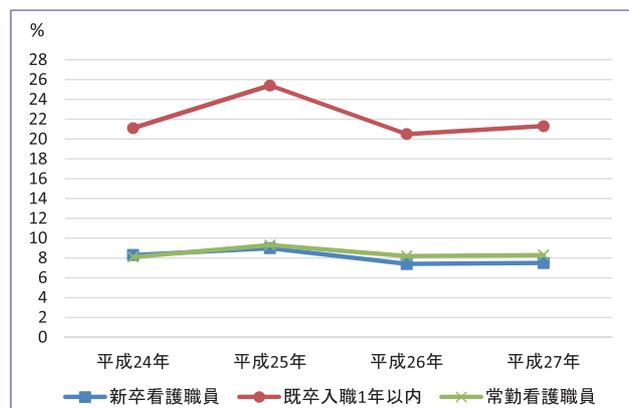
【退職者の離職理由（全体）】

- 1位 他の職場への興味
- 2位 自分の健康
- 3位 自分の適性・能力への不安

【新卒退職者の離職理由】

- 1位 自分の適性・能力への不安
- 2位 他の職場への興味
- 3位 他分野への興味

②看護職員の離職率の推移



香川県ナースセンターは、香川県看護協会事務局内にある**無料職業紹介所**です。

看護職の就労を支援しています。

就業支援コーディネーターによる個別相談、再就業を支援するための研修、実態調査など看護職のために様々な業務を行っています。

ご相談は、来所でも電話でも大丈夫です。お気軽にご活用ください。 **電話 087-864-9075**

就業支援コーディネーター：福岡・辻・加藤 ナースセンター担当：田中・曾根

香川井下病院

熊谷友見子



平成28年度の「ふれあい看護体験」は高校生18名、中学生6名の24名が参加しました。中には他の病院やオープンキャンパスで体験した学生や当院での体験が2回目と看護に興味を持った参加者が多かったです。午前はBLS、手指衛生、ガウンテクニック、車椅子・ストレッチャー乗車、エアマット臥床、血圧測定、採血など体験し、午後はふれあいを目的にデイケアと療養病棟でのレクリエーションに参加していただきました。笑顔の患者さんと一緒にゲームをすることで緊張がほぐれ、穏やかな時間を過ごしていました。

感想文には「胸骨圧迫は命が助かる可能性が2倍上がると聞き、肋骨を折ったらどうしよう…怖いなど考える前に、一人の命を助けるために全力で向き合わないといけないと考えが変わりました」「一緒にゲームをしていて笑顔で『ありがとう』と言われて嬉しかった」などと書かれており、喜びややりがいを感じてもらえたと思います。

今後も、ふれあい看護体験を通して、看護の魅力や人を思いやる気持ちの大切さを伝えていきたいと思います。



小豆島中央病院

吉元 和子



風光明媚な小豆島に、今年もふれあい看護体験の季節がやってきました。

例年は、看護の日に行っていますが、小豆医療圏地域医療再編計画で本年4月1日に開院したばかりの当院では、初めて夏休みに開催しました。参加者は過去最大の26名で、年齢は小学生から30歳代の一般の方までと幅広く、特に「プチ旅行気分で来ました」と島外からの参加や、「お母さんがこ

こで働いているので、新しい病院を見てみたかった」と職員家族が多数興味を示してくれる等、キラキラ輝く笑顔が眩しくとても感動的な一日となりました。

今後も小豆島ならではのアットホームな雰囲気大切にしながら、「看護」に興味を持って下さる方々に、心を込めてこの仕事の素晴らしさを伝え続けたいと思います。



高松市民病院

藤澤 ちえ



夏休みに入ったばかりの7月23日（土）に、「ふれあい看護体験」を実施しました。参加者は9名の高校生で、全員が看護職への希望、興味を持っていました。ナースウエアに着替えて記念写真をとった後、手術室見学、車いす、ストレッチャー移動体験、新生児室・沐浴見学、病棟での患者さんとのふれあい体験（足浴、コミュニケーション）を行いました。体験後の意見交換では、「手術室で働きたい」「助産師になりたい」「高齢者看護を学びたい」との感想があり、看護職への興味がより具体的になったようで嬉しく思いました。参加者全員が将来に対してしっかりとした考えを持ち、看護職への思いを確実なものにしたいという目的を持って参加していることが伺えました。今後も患者さんとの触れ合う時間を持ち、さらに興味や期待がもてるような内容で「ふれあい看護体験」を企画していきたいです。



キラキラナース紹介

ROAD TO ROAD

さぬき市民病院 中村 淳也 蓮井 龍哉



私たちの職場には、2010年に発足したサイクリングクラブがあります。チーム名はS.C.C（さぬき市民病院サイクリングクラブ）。最初は看護師だけでスタートしましたが、現在は、医師やコメディカルも在籍しておりメンバーも増え30人となりました。

発足当初は人数も少なく、趣味程度のサイクリングで近所に美味しい物を食べに行く事が多かったのですが、最近ではロードバイクで富士山を登るレースに参加したり、小豆島を一周するイベントに参加するなど活動の幅も広がってきました。また、地元さぬき市主催のサイクリングイベントでは、参加されたサイクリストに怪我や事故がないようガイドをしたり、運営側の活動もするようになりました。

チームメンバーともに県内を走っているといろいろな方から声をかけていただきます。又、他のサイクリスト達との交流も多くなりコミュニケーションを図ることでロードバイクを通してたくさんの仲間ができました。

レースに打ち込む方、サイクリングを楽しむ方、ロードバイクが大好きになりすぎて自転車屋を開業してしまった方などS.C.Cには楽しみ方も色々です。

余暇が充実すると仕事に対する意欲も高くなり、真摯に取り組めるようになりました。S.C.Cを通して自分の成長を実感しています。

みなさんもよかったら一緒にロードバイクに乗ってみませんか。S.C.C会長を中心にまとまりある楽しいクラブです。またS.C.Cメンバーを見かけたら気軽に声をかけてくださいね。楽しいですよ。

私のリフレッシュ時間

KKR高松病院 宮崎 麻美



KKR高松病院に就職し12年。この12年間に結婚・出産を経験し、気づけば5歳ともうすぐ2歳になる子の母になっていました。一番手のかかる時期の子どもたち。実家が県外ということもあり、夫と2人で子育てしていくのは本当に大変で心が折れそうな事もあります。急な病気で休まなければならないこともあり、職場には迷惑をかけています。しかし、私や子供たちのことを心配してくれる仲間がいる職場だからこそ、仕事が続けられていると思います。

家族全員が揃う休日は、「公園に行きたい」「シャボン玉がしたい」「自転車で遊びたい」など子どもの希望を聞き、家族全員で一緒に楽しんでいます。また、5歳の娘と、一緒に夕食を作ったりするのも楽しみの一つです。そんな姉の影響もあってか、妹は色々なことに興味を持ち好奇心旺盛に育っています。子どもたちと向き合い、些細な成長に気づき嬉しくなるのも、時間に余裕がある休日ならではです。また、子どもたちが寝静まった後に子どもの保育園での様子や家庭での様子、日々の成長など夫とゆっくり話す時間をもつのもリフレッシュの一つです。

今年の夏は、初めて家族全員で花火大会に行きました。船の上からみる花火に子どもたちは大興奮。私自身もとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。また、連休を頂き帰省しました。久しぶりに祖父母や叔母と再会し、楽しそうに過ごしている子どもたちを見て嬉しくなるのと同時に、私自身もリフレッシュでき有意義な時間となりました。

日々、仕事と家庭・育児におわれバタバタと月日が過ぎていっていますが、今しか見られない子どもの成長を楽しみたいと思います。

理事会報告

第3回 平成28年8月6日(土) 9:40~12:50

○協議事項

1. 平成28年度第1四半期会計報告(案)・監査報告(案)(承認)
2. 収支相償不成立に伴う対策(案)(承認)
3. 新会員情報管理体制「ナースシップ」に伴う看護研修センター維持管理費徴収(案)(承認)
4. 研修参加費にかかわる消費税8%の会員負担(案)(承認)
5. 会社役員賠償責任保険契約更新(案)(承認)

第4回 平成28年10月1日(土) 9:40~12:30

○協議事項

1. 平成29年度行事計画(案)(承認)
2. 収支相償成立への計画(案)(承認)
3. 2017年全国看護セミナー共同企画(案)(承認)
4. 平成28年度複十字募金(案)(承認)
5. 業務執行状況報告(案)(承認)

平成28年10月から 新会員情報管理体制「ナースシップ」運用開始!!

「新会員証」「平成29年度継続申請書」「施設用WEB」利用申請書は、お手元に届いていますか？
手続きはお済みですか？ スムーズな移行に向けて、できるだけ**10月末**までに手続きをお願いします。
11月以降も引き続き受け付けています。

提出する前に、もう一度確認を!!

- ① 施設用の返信用封筒(グレー)は、そのままポストへ投函しないで、**会員代表者様**まで提出!!
- ② 「会員継続申請書」は、「**会費納入方法**」の記入漏れがないように!!
- ③ 「入会申込書／会員情報変更届」は、「**申込区分(新規入会／他県からの移動など)**」の記入漏れがないように!!
- ④ 「入会申込書／会員継続申請書」を紛失した場合は、「**入会申込書／会員継続申請書**」にご記入ください。
記載内容に変更がない場合は**申込区分は「9」**と記入してください。
- ⑤ 退会される方、退職している方の「**会員証**」「**会員継続申請書**」は、「**退会**」「**退職**」を明記の上、**香川県看護協会**までご返送ください!!

移行手続きスケジュール

平成28年

- 8月 事務委託会社 受付窓口開設
- 9月 6月中旬までにご入会された方
 - ・「新会員証」の配布
 - ・平成29年度「継続申請書兼口座振替依頼者」の配布
 - ※6月中旬以降のご入会の方は、順次「新会員証」を送付
- 10月 新会員情報管理体制「ナースシップ」運用開始
マイページ(キャリアナース)開設(個人で登録を!!)
「施設用WEB」開設(希望施設は申請書の提出を!!)
銀行振込(施設とりまとめ)受付開始

平成29年

- 1月 平成29年度会費など
- 下旬 口座振替(施設：口座振替希望者、個人会員：希望者)
銀行振込(施設：とりまとめて納入、個人会員：希望者)
コンビニ収納(個人会員：希望者)

会員代表者の皆さま、会員手続きをご担当いただいている皆さまには、移行に伴う作業にご協力をいただきありがとうございます。引き続きご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

1 第33回 香川県看護学会 参加者募集中

「研究成果を共有しませんか」皆さまの参加をお待ちしています。



2 平成28年度香川県看護協会 入会手続きの締切迫る。10月31日(月)まで!!

まだ、入会手続きがお済みでない方は、お早めの手続きをお待ちしております。

編集後記

今回の表紙は、秋らしい県内の風景を広報委員が撮影しました。いかがでしょうか？引き続き、皆様からの写真の提供をお待ちしています。

広報出版委員

玉岡富美子 岡本 順子 長町 美智 宮下由美子
山下 薫 木村 恵子